

○ 子どもには、親の失敗談をしてあげよう！

「もし、わたしの子どもがそばに来て、「お父さん、暗いところが怖い」と言ったら、「そうかい、お父さんもお前くらいの時には恐かったもんだよ」と正直に言おう。「バカなことを言うな。恐がったらダメだ！」と叱ってみても、それは逆に、子どもが求めている勇気を失わせるだけである。わたしの見るところでは、適応性のある明るい子どもは、何とかうまくやっていく。そんな子は、過ちのない両親のもとで育つのではない。むしろ過ちは多くとも、正直で互いに欠点を認めあえ、温かさのある開放的な家庭で育つようである。」

『若い父親のための10章』 J.M.ドレッチャー

○ 親も昔は子どもでした。

悔しくて泣いたり、友だちと小競り合いをしたり、今の子どもと同じように、ドタバタ劇を繰り返していたのです。

大人になると自分の子ども時代の事はすっかり忘れて棚上げし、親の期待する姿を要求しがちです。子どもにしたら、親御さんには自分の今を共有して欲しいだけなのに、いつも理想的な明日だけを求められている気がするのです。

すると子どもはやがて、「どうせ自分は、お父さんの期待には応えられないダメな子なんだ」と思い込んで自信を失くしたりあるいは「ダメな方が楽でいいや」とひらきなおったりとやる気のないひ弱な子に育つといえます。

親が一生懸命に熱心になればなるほど、子どもの命がしぼんで行くとしたら、どんなに残念なことでしょうか。子育てはなんと空しい労苦でしょうか。

- 毎日毎日、いろんなことで心騒がしく、お忙しい事でしょうが、できれば、ときには「そうだね、お母さんも、それできなかったんよ」、「お父さんも失敗したんだ」と子どもの側に立ってみてください。どうぞ、何度でも繰り返し、茶化したり、さえぎったりせず、子どもさんの言葉に耳を傾けてください。きっと子どもさんは「お母さんはわたしことをわかってくれている」「お父さんはぼくのことを好きなんだ」と安心し、自信ある子に育ちますよ。実行してみてくださいね。

「誰でも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい」